

令和6年度 八王子市立上柚木小学校 学校経営報告

<令和6年度の目標と方策>

1 確かな学力の向上（〇よく考える子（知））

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>①取り残さない</p> <p>市学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちおうじっこミニマムを全員ができるようにする（全問正解者数、率） ・市学力調査（4～6年） ・習得目標問題の満点の習得率 ・ドリルパークの活用率 ・朝学習の時間（8：25～8：40）の取組 	<p>①算数の基礎基本の定着について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちおうじっこミニマムを全員ができるようにする（全問正解者数、率） ・市学力調査（4～6年） ・習得目標問題の満点の習得率 ・ドリルパークの活用率 ・朝学習の時間（8：25～8：40）の取組 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な研究授業により、確実な指導力の向上ができた。それによる児童の基礎力の向上も、児童のアンケート調査の結果から見取ることができた。 ・はちおうじっこミニマムについては第1回から第2回で全問正解者が国語で4人、算数で1人増加し、平均点も国語は15.57から17.16点、算数は15.44点から16.43点に上昇した。 ・ドリルパークを中心に取り組んだ。3～6年生の内容を復習する機会を定期的に設定したことが、学力向上につながったと考えられる。 <p>市学力調査 (算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の「数と計算」は全国との差がマイナス9ポイントだったが、2回目ではプラスに転じるなど1学期に課題が見られた領域が改善された。 ・5年生は、どの領域もマイナス6ポイントだったが、2回目は「数と計算」以外はプラスに転じた。マイナスポイントだった思考判断もプラスに転じた。 ・6年生はどの領域もマイナス5ポイント以上だったが、2回目は「図形」マイナス1.9ポイントを除きどの領域もプラスに転じた。観点別では、知識はプラスに転じ、思考も伸びが見られた。 ・どの学年も苦手な領域を重点的に指導したことが向上につながったと考えられる。 <p>(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生は「思考・判断・表現」が市区町村との差がマイナス0.2ポイントだったが、2回目ではプラスに転じた。また、「読むこと」も全国との差がマイナス1.8ポイントだったが、2回目ではプラスに転じた。 ・5年生は、「読むこと」が全国・市区町村との差がマイナス1.0、0.5ポイントだったが、2回目ではプラスに転じた。また、「書くこと」も市区町村との差がマイナス2.4ポイントだったが、2回目ではプラスに転じた。 ・6年生は、「知識・技能」や「言葉・情報・言語文化」が全国との差がどちらもマイナス0.5ポイントだったが、2回目ではプラスに転じた。 ⇒4・5年生が共通して「読むこと」が向上したため、読書活動の推進「読むこと」にも活かされてきと考えられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を第一に考えることを前提に、学校としてのドリルパーク活用のスタンダードを確立する必要があると考えられる。 <p>市学力調査 (算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に向上が見られたが、まだ5年生の分数の計算など課題もある。今後も苦手な単元を中心にドリルパークなどで課題配信しながらCD層の底上げをする必要があると考えられる。
<p>②基礎的基本的な事項の定着</p> <p>〇読み・書き・計算、自立した家庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童定着率（保護者アンケート結果） ・学習用端末を活用した家庭学習の実施 	<p>②家庭学習の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じた家庭での学習 ・低学年の受容型の家庭学習から、高学年の主体的な家庭学習の移行について ・学校から家庭への啓発を行い、共通理解のもと自立した家庭学習の習慣化を目指す ・小学校卒業時には、児童が家庭学習においても自立した学びができる 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、児童の実態や学習の進度、内容に応じた取り組みを行っている。家庭との連携以外では、多くの児童に家庭での学習の習慣がみられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「上柚木小 家庭学習ハンドブック」があるが、児童の実態や家庭環境に合わなくなってきている。家庭学習についても学習用端末の持ち帰りやドリル型アプリの活用と従来の紙ドリルや紙プリントの活用、メリットを生かしバランスよく取り組ませる、学校としての意思統一が急務であると考えられる。 ⇒「読み・書き・計算」の基礎的基本的な学力の定着は全学年共通。そのため「家庭での学習」の取り組み内容を発達段階に応じて変える必要がある。発達段階ごとの「家庭での学習」の取り組みを全校で共通の取り組みとした学校としての「家庭での学習」スタンダードを作る必要があると考えられる。スタンダードを踏まえた上での、学年及び学級の実態に応じた「宿題」と考えていきたい。
<p>③豊かな言葉を育てる</p> <p>〇読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級の設定読書目標の結果について ・本のPOPコンテスト結果について <p>〇音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間、放課後の時間の活用 ・家庭での学習（保護者の協力体制） <p>〇詩の暗唱チャレンジ（1～4年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀賞・金賞・マイスター合格率 <p>〇発表「人に伝える」</p> <p>〇外国語1～6年で実施</p>	<p>③豊かなことばを育てる実践について</p> <p>〇読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級の設定読書目標の結果について ・本のPOPコンテスト結果について <p>〇音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間、放課後の時間の活用 ・家庭での学習（保護者の協力体制） <p>〇詩の暗唱チャレンジ（1～4年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀賞・金賞・マイスター合格率 <p>〇発表「人に伝える」</p> <p>〇外国語1～6年で実施</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本のpopコンテストも定着してきており、家庭も力を注いでくれるようになった。親子で取り組む良い取り組みの時間が確保できているのではないかと考えられる。 ・本のPOPコンテストでは、9割以上の児童が作成・提出し、入賞者5名、優秀賞3名、最優秀賞1名が出るなど、意欲的に取り組めた。 ・各学級の設定読書目標の設定により、全学級目標冊数を達成し、読書旬間期間の2週間で全校1314冊読むことができ、より読書活動が充実した。 ・詩の暗唱について、1～4年生の取組とし、銀賞50%終了合格、金賞100%終了合格、マイスターの各賞を目指すことを目標に意欲的な児童（意欲的、協力的な家庭）は、各賞の受賞で「できる自分」を感じ、意欲や自己肯定感の向上が認められる。友達の頑張りを認め、称賛する気持ちを持たせることもできた。 ・「人に伝える」発表の機会を増やすことで、身に付け知識や経験を表現する取り組みを全校で共通理解し、学校行事、校内研究、日常の各教科の学習の中で意図的に取り組むことができた。校内研究での児童算数アンケートの回答でも「人に伝える」「発表する」ことの苦手意識が減少した。 ・ALT以外に、社会の力を活用した事業予算を英語の外部講師に充てていることで全学年で学級担任と連携した外国語・英語学習の充実を図ることができている。

		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩の暗唱の取組は、学級での取り組み時間の確保が難しく、取り組みを家庭に委ねざるを得なかった。今後、学校として詩の暗唱に取り組みさせることは、中学年でも厳しい。活用方法がはっきりしなかった点、取り組みの再考が必要と考えられる。 詩の暗唱について、1・2年生での銀賞、金賞合格の児童は半数に満たない。約2割程度。保護者に冊子を購入してもらい家庭との連携した形で取り組んでいるが、家庭での学習としての取り組みが浸透していないのか、家庭での学習時間が確保できないのか、費用対効果は薄いのが実態。保護者負担金の削減の観点から「良い取り組み」ではあるが、取り組みの再考が必要と考えられる。取り組みをなくした場合は、詩の暗唱の代わりに「教科書の音読」を充実させることで「豊かな言葉の育成」としたい。
<p>④学習用端末の日常的な活用</p> <p>○学習に応じた効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた活用、協働的な学びの活用 普段使いの活用方法の拡大について 効果的な活用方法について <p>○普段使いの実践について</p> <p>「朝学習」「授業中」「家庭」</p> <p>○ドリルパークの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた活用、協働的な学びの活用 ミライシードの機能を活用について <p>○Googleのシステムを活用について</p> <p>○研修や情報共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常時のオンライン活用について 教員が学校に来ることが出来ない場合 オンラインでの会議、オンライン授業 学校公開・学校行事でのオンライン配信 登校渋りの児童のオンライン対応 	<p>④授業支援ツールの導入と授業実践</p> <p>○学習に応じた効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた活用、協働的な学びの活用 普段使いの活用方法の拡大について 効果的な活用方法について <p>○普段使いの実践について</p> <p>「朝学習」「授業中」「家庭」</p> <p>○ドリルパークの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた活用、協働的な学びの活用 ミライシードの機能を活用について <p>○Googleのシステムを活用について</p> <p>○研修や情報共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常時のオンライン活用について 教員が学校に来ることが出来ない場合 オンラインでの会議、オンライン授業 学校公開・学校行事でのオンライン配信 登校渋りの児童のオンライン対応 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級担任が教科や単元の中で、効果的に授業支援ツールを活用している。日常的な活用が浸透し、児童の活用力も学力も向上している。 児童が欠席の場合に保護者から「オンライン授業」の希望があるが、学級担任が対応できている。非常時のオンライン活用に向けた技能として教員の「技能」を今後も維持できるようにしたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級担任の効果的な授業支援ツールの活用を共有する場としての研修を今後も一層充実させることで、児童の活用力と学力の向上を図っていく。 オンライン技能の維持と活用として、長期休業明けの始業式前日までに全学級で『前日オンライン朝の会（仮）』を実施したい。気になる児童の状況把握にも役立つ。
<p>⑤主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 問いを引き出す、交流の工夫による授業づくり 伝える、発表する場面の設定と機会の重視（学びや知識の活用） 子供が主語になる学習活動を行う（自分事ととらえる） 	<p>⑤校内研究として全校で取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年での実践授業について 授業改善について 自分の考えを発信する手立てについて 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 八王子市学力調査（2回目）の算数の結果、4・5・6年生ともD層の割合が減少し、C・B層の割合が増加し、学力の底上げができた点は、校内研究のテーマを教員が共通理解し取り組んだ成果である。（校内アンケートの結果から） 低学年では、多くの児童が算数の良さや面白さを感じながら学習できているが、図や式を活用することでより問題の理解につながると考えられる。 中学年では、「ノートに考えを書くこと」や「図や式を使って説明すること」を問題の理解につなげていけるとよいと考えている。 高学年では、学習内容が難しくなり問題を理解することの難しさが読み取れるが、ノートに考えを書いたり、図や式を使って説明をしたりという問題解決の手段は身に付いてきていると感じている児童が増えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研究（算数）では、3年間の研究を通じて、子供が主語となる学習活動のために「自分事として捉える」ことを意図した授業改善に取り組んできたことで、主体的な学びを行うことができた。算数以外の教科や特別活動の中でも児童が「自分事と捉える」取り組みが目立つようになってきた。校内研究の成果を生かし続けることで、各教科の今後の主体的で対話的な深い学びにつながっていくと考えられる。

2 豊かな人間性の育成（◎仲よく、協力する子（徳））

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>①自他ともに尊重する態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 受容と寛容、違い（多様性）を認める あたたかな人間関係づくりの推進 特別活動・学校行事 （運動会、「音楽」「図工」発表会、ゆずっこフェスティバルの実施等のねらいの確認） たてわり班活動（8回）での低中高のめあて設定 あいさつや言葉遣い、呼称に配慮し、温かな言語環境を整える 正門（校長）、昇降口（おおり、専科） 生活指導重点目標「言葉づかい」の取組 『ふれあい月間』（学期1回）の重点として指導 	<p>①②③④</p> <p>年間を通して活躍の場、児童の良さを見だし、伸ばす場面を設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級での係、当番活動、 たてわり班活動（めあてをもった活動について） クラブ、委員会活動 学級、学年行事 運動会、「音楽」「図工」発表会等の学校行事 教職員自らが実践し、あいさつや正しい言葉遣い、礼儀等の指導の全校での継続についての実施状況・意識調査 人権教育、道徳教育の充実 ゆずっこフェスティバル 「いいところ応援計画」全学級1実践以上 上柚木進化プロジェクト（児童会が主体となった取り組み） キャリア教育（キャリアパスポートの効果的な活用と実践の積み重ね） 上柚木小学校が自分の居場所であり、仲間との絆を感じられる場所とするために、児童と教職員で楽しみながら取り組む風土をつくることについて 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「あいさつは自分から」を全教職員が実践している。 ①毎月のアンケートと先生方の丁寧な対応が児童の安心につながっていると考えられる。また、アンテナを高くして、児童のちょっとした変化や言葉の中から「なんか変」を感じ取り、大事になる前に対応できている。 ①③④6年生の最高学年としての責任や役割など学校のリーダーである自覚をもつ機会としてよい取り組みである。また、1年生が上級生と触れ合うことを楽しみにしていることはとてもよい。 ①④児童会による主体的なあいさつ運動は、実践した児童だけでなく、全校児童のあいさつに対する意識の向上が見られた。年間のどこかに位置づけ、継続していけると良い。児童発になるよう考えたい。（金子） ①④ゆずっこフェスティバルでは、児童が協力して企画・運営し、自主的に活動することができた。また、他学年との交流を通して、上級生に対して尊敬や憧れの気持ちをもったり、下級生に対して思いやりの気持ちをもったりすることができた。 ①④キャリアパスポートを定期的に活用し、目標を決めたり、自己を振り返ったりすることができた。 ②④「いいところ応援計画」として、改めて計画しているわけではないが、子供の善行やアイデア、がんばりなど積極的に認め言葉にしていることで、他の児童にも伝わり、認め合いの一助となっている。 ②④「いいところ応援計画」として、改めて計画しているわけではないが、子供の善行やアイデア、がんばりなど積極的に認め言葉にしていることで、他の児童にも伝わり、認め合いの一助となっている。 ④道徳授業地区公開講座の学校公開日上柚木クリーン活動をたてわり班で行い、保護者、地域と連携を深めつつ、異学年で交流しながら活動を進めることができた。小中一貫グループの合同の取組にしていきたい。
<p>②自己肯定感の育成と向上</p>		

		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ、不登校により学校が「つらい場所」とならないための未然防止及び心身ともに健やかで豊かな心を持った児童の育成のための学校風土の醸成をねらっているが、教職員、児童、保護者とも「上柚木小学校の目指すところ」は浸透していると感じられる（学校評価「経営方針「自分の居場所と仲間の絆が感じられる」肯定的回答82%、「子供が通いたくなる学校である」肯定的回答86%、「保護者が通わせたい学校である」肯定的回答88%） ・運動会、「音楽」「図工」発表会、学校公開の保護者アンケートからも学校への取り組みを肯定的にとらえている保護者がほとんどである。（自由記述のみのアンケート） ・登校時の教員による「あいさつ」の出迎えにより、児童の挨拶は当たり前になっている。学校に登校して子供たちが「いつもと同じ」「安心して登校できる」「子供を迎える雰囲気作り」は上柚木小学校の文化として定着している。 ・毎週金曜日の6校時を「いじめ対応の時間」と定めているが、いじめ対策委員会を開催し対応する案件がないと時があることは、毎月の生活アンケートや担任と保護者、担任と専科および特別支援教室担当らとの連携や組織的な対応、共通理解、情報共有できている組織としての成果であると考えられる。 ・児童会が主体となった上柚木進化プロジェクトの「いじめ撲滅の取組」は、はちおうじっ子サミットや小中一貫の取り組みの成果でもある。主体的にいじめを「自分事」ととらえる児童の発信によるものである。
<p>③コミュニケーション能力の育成と向上 (聞く・話す・伝え合う)</p>		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり遊びの日数が少なく、子供たちが成果を実感しづらい。たてわり遊び以外の何かを打ち出してみたい。 ・登校渋りの児童の「継続的な登校」が課題である。現状、担任と保護者及びSC等、児童に直接かかわる大人同士の連携は、登校渋りの児童を見守る組織としての、学校としての対応としてできているが、児童の継続的な登校にはつながっていない。学校への登校がすべてではないが、登校渋りの児童と学校のより確固たるつながりを模索する必要は感じられる。
<p>④社会人となる基礎の育成 (あいさつ・言葉遣い・礼儀・規範意識・自主自律)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育、道徳教育の充実 ・たてわり班活動 ・ゆずっこフェスティバル ・「いいところ応援計画」全学級1実践以上 ・上柚木進化プロジェクト (児童会が主体となった取り組み) ・キャリア教育 (キャリアパスポートの効果的な活用と実践の積み重ね) 		
<p>⑤いじめを許さない風土の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が「安心できる自分居場所」と感じられる ・重大ないじめに発展させない 	<p>⑤実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業等で、友達の考えを肯定的に聞き合い学びあえる学習環境についての実施状況 ・児童アンケートの肯定的な回答率 	<p>【成果】</p> <p>教務 全員アンケートの結果</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「学校生活で「わかる・できる・たのしい」が実感できている」：「4-当てはまる」が最も多く、次いで「3-やや当てはまる」が多いです。およそ9割の児童が学校生活で「わかる・できる・たのしい」を実感できている。 ②「あいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」がきちんと言えている」：「4-当てはまる」が最も多く、次いで「3-やや当てはまる」が多いです。およそ9割の児童が礼儀正しい行動を心がけていると考えられる。 ③「先生たちは、自分のことを大切にしてくれている。」：「4-当てはまる」が最も多く、次いで「3-やや当てはまる」が多いです。およそ9割の児童が先生から大切にされていると感じている。 ④「先生たちは勉強や生活のことをわかりやすく教えてくれる。」：「4-当てはまる」が最も多く、次いで「3-やや当てはまる」が多いです。およそ9割の児童が先生の教え方を理解できていると感じている。 ④「先生たちは、勉強や生活でがんばっていることをわかってくれたり、ほめてくれたりしてくれる。」：「4-当てはまる」が最も多く、次いで「3-やや当てはまる」が多いですが、他の項目に比べると「2-あまり当てはまらない」の割合が高くなっています。およそ8割の児童が先生から認められていると感じている。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童の考えを受け取れるように、全児童が自分の意見を声にできるように、少人数での話し合いや意見交流、発表の時間を設定している。児童にとって意見を伝えられる、他の意見と比べて自信がもてる、新たな意見を知ることができる互いの認め合いにつながっている。 ・学校の道徳教育の重点目標として「親切、思いやり」「生命の尊さ」の2項目を重点項目に設定した。さらに、相手を「自分と同じく大切な存在として認め、尊敬と敬意を持って接する」態度を育てる授業を行った。 <p>【課題】 前期・後期ともにアンケート結果に大きな変化はないが</p> <ol style="list-style-type: none"> ④「先生たちは、勉強や生活でがんばっていることをわかってくれたり、ほめてくれたりしてくれる。」の項目で「2-あまり当てはまらない」の割合が他の項目より高くなっているため、先生たちがより積極的に児童の頑張りを認め、褒める機会を増やすことが重要である。

3 健やかな心と体の育成（〇明るく、がんばる子（体））

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>①基礎的な体力の育成と向上 （休み時間、放課後遊び、体育） スポーツテスト実施と結果の活用</p>	<p>①② 各自・学級・学年でめあて（目標）をもって実施 ・実施状況 ・スポーツテストの計画的な実施と結果分析資料の作成</p> <p>児童が目的意識をもって取り組む活動 ・なわとびチャレンジ （個人：短なわ、学級：長なわ） ・持久走チャレンジ ・運動やスポーツへの興味・関心を高める体育授業の工夫・改善 ・全校共通のカードを用い、全校でがんばる雰囲気づくりを重視</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとびチャレンジ、持久走チャレンジの取り組みの期間、全校児童が真面目に向き合い取り組んでいる点が素晴らしい。 ・3回の体育的行事（短なわ・長なわチャレンジ、持久走チャレンジ）の実施方法も定着してきており、参加児童数が増加し、安定してきた。また、運営する側の体育委員会も見通しがもてており、自主的に行動することができた。 ・体力テストは、アルファのシステムを活用し、保護者にも周知&活用をうながすことができた。スタンダードとして、次年度も継続できそうである。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長なわ記録会について年1回に減らし、児童の得意不得意や意欲等を考慮した「役割」を含めた「学級の一体感」や目標に向かって「力を合わせる」をめざしが、結果を『取り組みの成果』として受け止められない児童や保護者が散見されたことを重く受け止め、取り組みのねらいを改めて明確にし、「取り組みの成果」として肯定的に受け止められるように手立てを変えることが課題。
<p>②体力や運動技術の向上 （体育、体育的な活動、スポーツテストの活用） 児童が目的意識をもって取り組む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとびチャレンジ （個人：短なわ、学級：長なわ） ・持久走チャレンジ ・運動やスポーツへの興味・関心を高める体育授業の工夫・改善 ・全校共通のカードを用い、全校でがんばる雰囲気づくりを重視 		
<p>③望ましい生活と食習慣づくり（食育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはん、給食指導 （SDGs、もったいない、おはし名人） ・生活リズム表（長期休業明け） 保護者とともに生活習慣の向上 年3回実施。（提出率90%以上） ・感染症防止対応の徹底 ・「ノーメディアチャレンジ」実施 結果を分析し、保護者に周知・啓発 ・ゲーム依存防止の発信・支援 （スクールカウンセラーとの連携） <p>栄養士・養護教諭による食育や保健指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習（栽培・食育） ・給食試食会（1, 2年生保護者対象） 	<p>③実施状況 保護者アンケート、実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズム表」は、長期休業中に年3回実施。一週間意識的に家族で取り組むことで生活習慣を見直す機会となった。健康維持の大切さ、メディアとの付き合い方に対して気付きを持った児童や保護者が多かった。 ・感染防止→保健日より、動画や資料提供による学級指導、掲示物また。委員会活動を通して児童への指導徹底し、感染拡大を防ぐことにつながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズム表」の提出率は70%と目標未達成。各学級や学校からの提出の促進徹底する。 ・「ノーメディアチャレンジ」は冬季休業中に実施したが、児童のみで取り組むだけでは不十分である。家族が作る生活リズムが児童の生活リズムに大きく影響することや保護者の意識改善がよりよい児童の生活リズムを生むことを考えれば、保護者を含め家族で取り組むような促しを行うことが必要である。
<p>④上柚木小学校のレガシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡言葉と音楽等による表現の活動 ・発表する、人に伝える ・学習の成果を表現する機会 ○運動会（体育） ○「音楽」「図工」発表会（音楽・図工） ○学校公開（授業公開） <p>学校レガシーの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡体育、音楽、図工の実技教科の学習成果を発表する学校行事を学校レガシーとする ➡改まった場で、学年相互が発表を見合い、保護者、地域に向けて発表する機会とする ・学習の成果を発表する学校行事として、1学期運動会、2学期音楽会と作品展の同時実施（学年は隔年で取り組む：6年生が音楽会） ・各学年で対象学年や対象者を決めて、積極的に発表する機会を設ける ・保護者アンケート肯定的な回答80%以上 	<p>④実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会では保護者参加競技（大玉送り）を施設し、実施することができた。 ・保護者アンケートは自由意見での回答で、肯定的な回答率は出せなかったが、概ね好意的な意見をいただくことができています点。 ・校内研究の成果でもあるが、「児童間で交流する」ことが「発表する」「表現する」活動につながっている。学級担任も日常の学習の場で「表現する」ことを重視し、学習活動に取り入れている。 ・図工の作品は学校公開や保護者会に合わせて作品の展示をしている。また、3学期の保護者会の前に、1・3・5年生は音楽の学習の成果を発表した。「音楽」「図工」発表会以外でも児童の「発表」の場を率先して設けている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記大玉送りに関して、教師主導の競技だったため、児童会児童が積極的に関わられるようなプログラムにしていく必要もある。

4 安心・安全な学習習慣の整備

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>○各種感染症予防対策に留意し、子供たちの学びを止めない</p>	<p>○社会情勢に柔軟に対応。コロナ禍で学んだ知見や経験を生かして</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学んだ知見や経験を生かして、様々な学校行事等を滞りなく行えた点（「学びを止めない」という実績に基づいて対応できている点）。 ・マスクの着脱や感染による「分断」「差別」がみられない点、今後も引き続き考慮しながら対応する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナは5類となり対策がゆるやかになった分、インフルエンザなど他の感染症が目立ってきている。アルコール消毒も大事だが手洗いをしっかりとさせたい。
<p>○災害時等のマニュアル確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検、安全指導 の計画に沿った危険箇所の点検や整備 ・引き取り訓練の時の保護者と連携した実施 	<p>○危機管理体制の整備、実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検と必要な整備ができている点。 ・小中一貫グループ校で児童・生徒の引き渡しについて、共通理解し、共通の対応ができるようになった点。 ・小中合同引き取り訓練の意味や手順など、共通に理解しスムーズに行えるようになった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風や暴風雨の際の登校や下校の基準が小中で定まっていない点、小中ですり合わせを行う必要がある。
<p>○落ち着いた学習環境と生活環境の整備</p> <p>不登校等の支援体制の充実 （生活指導・教育相談の充実：校内委員会、SC、学校心理士等との連携）</p> <p>教育相談・特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童の対応 ・特別支援コーディネーターを中心とした研修実施 ➡校内委員会、月1回のケース会議の内容精選 <p>スクールカウンセラーと児童の面接</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生全員面接実施 <p>朝の出席状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迅速にし、欠席3日目の場合は、家庭訪問を実施し家庭と連携、 ・状況確認と初期対応 <p>授業中の支援方法の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校サポーターと担任（支援方法の確認と連携） 	<p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会、SC、学校心理士、SSW等との連携 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会がしっかり機能していて、SCとの連携を含め学校全体で共通理解し、支援体制が充実している点。 ・不登校児童と登校渋りのある児童について、状況把握と見守り、対応の見通しの共通理解ができている点。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が「居場所」となるような体制を具体的にどのように構築するか。
<p>○いじめ防止対策を徹底する （いじめはある、が・・・）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育・道徳教育の充実（自分も人も大切に作る心の育成） ・未然防止、早期発見・対応、重大ないじめに発展させない ・週1回はいじめ対策委員会の開催（いじめに向き合う時間） ・いじめの把握と認知、法に則った適切な対応（生活アンケート、いじめアンケートの実施） <p>○「いじめを許さない」意識を全校に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい月間」の実施（6・11・2月） ・全児童アンケート（毎月） ・子ども見守りシート（年3回実施） ・スクールカウンセラー面談による初期対応 ・週1回いじめ対策委を設定（金曜日6校時）（共有・対応の協議、記録整理、子供と向き合う時間） ・年3回はいじめ防止授業実施 ・スクールロイヤーによる教職員の研修（全体3回・0JTで共通理解） ・弁護士による5年生授業の実施 ・子ども家庭支援センター・児相・就相等との連携 ・解決までの継続的な支援体制の確認 ・関係機関との報・連・相の徹底と記録 <p>○安全教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS学校ルールの周知定着（SNS被害防止教室） ・セーフティ教室の内容充実（実態の保護者周知） 	<p>○いじめ問題の組織的な対応実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『いじめはある、しかし、重大ないじめに発展させない』の共通理解のもと、いじめの未然防止、早期発見、適切な対応ができている点を今後も引き続き維持していく。 ・学校が組織的に行っている「いじめ防止」の対応のほかに、はちおうじっ子サミットの取り組みを通して、児童会が中心となって、児童が『自分事』として「いじめをゆるさない」取り組みや啓発を行えた点は大きな成果。児童会を中心とした特別活動の取り組みを引き続き行っていく。 ・児童に関する情報は全職員で共有している。気になる児童については共通理解のもと、どの職員も同一指導を行えるようにしている。いじめと認定された場合は、いじめ対策委員会で対応手順を整え、組織で解消に向けて動くようになっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対応の各学級担任の記録を徹底すること。（小さなことでも事案と対応の記録を残す） ・SNSによる児童トラブルを未然に防止するため、児童への指導と合わせて、保護者の危機管理意識の向上を図ることが課題。学校公開時のセーフティ教室の参加者を増やすこと、日常的な周知が必要と考える。 ・小さなトラブルの原因は言葉であることがほとんどである。単語で会話を成立させてしまう傾向が感じられる。授業中だけでも、話型などを成長段階に合わせて与えることも必要であると考え。

5 保護者・地域・関係機関との連携

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>○学校運営協議会、ゆずっこひろば（放課後子ども教室）、かみゆぎ小スマイルサポーターとの連携、地域・保護者協力者による放課後学習支援教室の開設</p> <p>・学校運営協議会主催行事で地域の人材を活用する。（漢字検定、星空観望会）</p>	<p>○実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できる時に・できる人が・できることを」「かかわる人の生きがい」であることを基本に、放課後子ども教室の活動をできる限り支える校内体制を整えてきた。各種サークル活動、サタデースクール、朝活動へと活動の幅が広がり、放課後以外に「子供たちの安全な居場所づくり」が広がったこと。 ・児童が、学校で過ごす前後の時間を見てくださっていることで、家庭も教職員も安心している。児童にとっても信頼できる大人がたくさんいることはいいことである。（金子） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室と学童保育所の連携に課題。 ・遊びの充実に加え「放課後学習支援教室」の実現に向けた調整を令和7年度以降の課題と考えている。
<p>○小中一貫教育（上柚木中学校、愛宕小学校） 上柚木中学校グループで9年間の出口を『自己決定・自己実現』とし、小中が一体となった取組実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『小中の9年間で、どんな子供を育てたいか』を年間の協議テーマとする。 ・具体的な取り組みを考える意見交換を年3回実施。 ・中学校の教育目標を確認し、育てたい姿を共有 ・「義務教育の出口」から逆算し、小中一貫教育で○小中一体となった取り組みを実施 ・年3回の中学校・小学校の相互の授業参観 ・教員同士の意見交換 ・5、6年生の部活動体験を計画、実施 	<p>○小中一貫教育の推進と実施 実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上柚木小学校の学校経営方針にも小中一貫教育グループ9年間で育てる出口「自己決定・自己実現」に向けた力を身に付けることを位置づけ①伝える力②選ぶ力③決める力を「生きる力」として、令和7年度の目指す子供像に向けた具体的な取り組みに組み込んだ。 ・小中合同の取組のために学校公開日4時間目にたてわり班を生かした「地域清掃活動」を企画し「上柚木クリーン活動」とした。 ・今年度は部活動体験、夏休み小中合同学習教室だけでなく、中学校の合唱祭の練習の様子を見学した。さらに「はちおうじっ子サミット」に向けてオンラインでの児童会生徒会交流も開催することができた。 ・上柚木中学校の生徒が上柚木小に来て、上柚木小学校の児童に学習のサポートを行う学習教室では図書室で児童と生徒の直接交流の場を設けることで、より密接な交流ができ、小中一体の取り組みのねらいを実現することができた。 ・上柚木地区スタンダードを見直し、3校が共通理解のもと改定することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の取組のために学校公開日4時間目にたてわり班を生かした「地域清掃活動」を企画し「上柚木クリーン活動」としたが、中学校側からの反応を得ることができなかった。中学校を巻き込んだ仕掛けが必要と考えている。
<p>○保幼小連携（近隣保育園・幼稚園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中、教職員の幼稚園交流を実施、双方の要望や取り組み、課題などの情報交換 ・1年生、5年生が近隣幼稚園・保育園の園児を招き、校内で直接交流を実施 	<p>○スタートカリキュラムについての連携・情報交換 実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年の取り組みを整理し見える化するために、上柚木小学校版スタートカリキュラムを作成したこと。 ・1年生、5年生が近隣幼稚園・保育園の園児を招き、校内で直接交流を実施。児童と園児の直接交流の機会があることで、年長者として次年度以降の異年齢交流活動（たてわり班活動等）に向けての自覚をもたせることができる。 ・5年生は保育園との交流を通して、来年度の自分の姿をイメージし、最上級生になることへの意欲を高めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムを仲立ちとした、小学校と園の円滑な教員交流と連携を行うこと。
<p>○特別な支援や配慮を必要とする児童や家庭と関係機関をつなぐ</p>	<p>○実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任から保護者への適切な情報提供と児童の困り間や課題に対する共通理解、及び特別支援教育の必要性が合致し、必要な児童に必要な支援ができています。特別支援コーディネーターが機能し、学級担任、特別支援教室担当者、スクールカウンセラー等の連携がスムーズに行われている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から「特別支援教室の申し込みを学校から行うことになった」ということについて保護者に十分な周知徹底ができていなかった。教育計画に特別支援教室につなげる手順や必要書類などを明記し、教員がきちんと知っている体制を作ることが必要がある。

<p>○地域の教育力を生かした教育活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育ボランティアによる実践事例の作成 ・読書ボランティアによる読み聞かせ ・図書ボランティアによる図書室の整備 	<p>○各学年・総合で把握</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアによる図書室の整備で、図書室前のディスプレイを季節に合わせた装飾や本の展示をしていただき、児童が季節に合わせた選書をする事ができていた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以降、ボランティアによる『読み聞かせ』の活動ができていない。希望する保護者の偏りが学年によってみられ、うまく調整ができていないことが続いている。読み聞かせの必要性を精査し、実施ならば学校運営協議会（学校コーディネーター含む）での協議も必要であると考える。
<p>○保護者・地域への積極的な情報発信（H&S、ホームページ、学校学級だより 等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的な回答90%以上 	<p>○実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価による保護者の肯定的な回答は95%であり、保護者・地域への積極的な情報発信は、概ね良好と受け止められている。引き続き『早く、正確な、具体的な』情報発信を行っていく。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H&Sを使った情報の発信は教職員にとっても有効な手立てである。一方で学校ホームページへの最新情報の更新が疎かになりがちなので、合わせて『早く、正確な、具体的な』掲載を行う必要がある。

6 組織的な学校運営、責任ある分掌運営

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>○各職種・職層（主幹教諭、主任教諭、教諭）の実践課題を明確にし、適切に職務を執行する</p> <p>教育活動の精選とねらいの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のための学習活動か」「児童にどのような力を付けさせるのか」を意識した教育活動の設定 ・学校の意思決定と合意形成のため、職員会議と連動した企画会や運営委員会を開催する 	<p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施してきた教育活動のねらい・効果を確認する ・目的や目標に必要な教育活動の内容を教科横断的な視点で組み立てていく 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両主幹教諭はそれぞれの分掌担当者の職務を把握し、適切な声掛けや支援、指導ができています。また各分掌の担当者は自分の職務を責任をもって果たしている。 ・前年踏襲は「停滞」であることを理解し、少しでもよりよくブラッシュアップしている点。今後も教育活動の精選とねらいを明確にし、「何のための学習活動か」「児童にどのような力を付けさせるのか」を今後も意識していく。 ・学校の意思決定と合意形成のため、職員会議と連動した企画会や運営委員会を開催することができた。 <p>【課題】</p>
<p>○各分掌の担当が計画的に進行できる運営体制（H&Sを活用したPDCAの見える化）</p> <p>各分掌の担当が計画的に進行できる運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務進行管理の点検・整理・業務進行の際の事案 <p>決定手順の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化（事前資料検討、報告事項・協議事項の明確化） ・各分掌PDCAの「見える化」 <ul style="list-style-type: none"> ・部会ごとに各担当別の業務内容の一覧を記載した進行表を作成。年度ごとに毎回各担当者に内容を更新し、誰が担当になっても業務内容が「見える化」されている状態にしていく <ul style="list-style-type: none"> ・個人所有から分掌による文書管理 	<p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌組織の役割分担・内容の明確化と周知 <ul style="list-style-type: none"> ・進行表の作成、実施、改善 <ul style="list-style-type: none"> ・企画会、運営委員会、職員会議の計画的な設定・実施と協議内容の精選。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H&S等、ITを活用した情報発信と情報共有を有効に活用していることで、各担当の分掌内容や取り組み、進捗状況が「見える化」できている点で、計画的な進行管理につながっている。 ・両主幹教諭の働きが大きい。長・中期的な取り組みの徹底や早急な対応の迫られる対応等、組織としての動きがスムーズである点、組織として小回りの対応が利く点は。 ・個人所有から分掌による文書管理はできているが、その文化を継続していく努力は必要である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画会を定例とせず、臨機応変にしている点で学校全体にかかわる大きな行事に大きな変更がなく行われる際は事案決定や伝達がスムーズであるが、企画会を通さずに物事が大きく変わる際の事案が決定の流れに乗ってしまうことがある。事案決定の手順については面倒であっても年度当初の職員会議で共通理解させることが必要である。

<p>○服務事故防止 (日常的な指導と情報提供、服務事故防止研修、体罰チェックリスト、ガイドラインの活用) ・体罰をおこさせない組織的な指導体制と研修の実施(チェックリストによる点検 月1回) ・管理職及び関係部署への連絡・報告・相談の徹底 職員夕会や職員会議において周知・確認 ・私費会計および、個人情報の取扱規定、出張時における適正な事務手続きを徹底 ➡個人情報取り扱いマニュアル作成(4月) 保健カード等の確認チェック表作成(4月) 教務(転出入、学籍等)チェック表作成(4月) ・相談しやすい職場環境づくり</p> <p>➡衛生管理者3名の周知</p>	<p>○ガイドラインを活用した研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況把握 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な含む事故の情報提供に合わせた指導、定期的な事故防止研修の成果として服務事故の防止ができています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰チェックリスト等、ルーティーン的な事故防止の取り組みが形骸化していると感じる点。きちんと自己評価の意識を持たせる投げかけが、管理職として必要である。 ・「使命を全うする」「ガイドライン」等、事故防止のための根拠、原理原則的なことを周知する場を意図的に作ること、時間を確保することが必要。
<p>○教職員の働き方改革、ライフワークバランスの推進 生活と仕事の調和を保ち、心にゆとりをもって職務に専念できる環境を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水曜日「ノー残業デー」 ・サポート体制の整備、チーム対応(担任一人で抱え込まない・込ませない) ・未就学児、要介護を必要とする家庭環境の職員への相談・支援体制、相談しやすい場の設定 	<p>○状況把握</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員それぞれが「自分の働き方」を身に付けた熟成された職場であることで、教職員が互いの家庭環境や養育環境を理解し尊重しあう姿勢が、ライフワークバランスの推進に活かされている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が互いの家庭環境や養育環境を理解し尊重しあう職場の風土があることで、管理職として「ライフワークバランスの働きかけができています」と勘違いしないこと。職場の良い風土の維持と向上に努めること。
<p>○組織的な研究・研修を行い、授業力および生活指導力の向上に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己申告時における目標設定の重視 ・学年OJTを生かした校内での授業公開・交流の実施(自己申告時の授業案内と参観) ・年間計画の作成・実施 <p>・学び合う子の育成と授業改善の推進について年間6回の研究授業の実施。(校内研究)</p>	<p>○状況把握</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究について「ねらい」を共通理解して取り組めたことで各教員の指導力の向上がみられる。 ・初任者の研究授業を(年数回)や教師道場経験者の公開授業にも、複数の中堅、ベテラン教員が積極的に参観している実態は、上柚木小学校の教員の「質の高さ」を示すものである。今後も「学びあう教員」の風土を大切に、若手教員の育成、指導力向上に生かしていきたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上を図るための「授業の相互参観」はスケジュールを計画的に組まないと授業第一の学級担任の参観は難しい。校内研究の計画的な進行による研究授業の設定が、授業の相互参観の機会となっている。